

大阪・関西万博協会と意見交換、会場を視察

経済同友会は9月27日、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）協会との意見交換を行った。また、8月21日に一つにつながった夢洲万博会場のシンボル「大屋根リング」などを視察した。



「大屋根リング」の視察（下写真も）

■出席者（敬称略）

2025年日本国際博覧会協会

石毛 博行 事務総長
田中 清剛 副事務総長
三浦 章豪 総合戦略室長

経済同友会

新浪 剛史 代表幹事
サントリーホールディングス 取締役社長

松江 英夫 幹事／経済・財政・金融・社会保障委員会
委員長／統合政策委員会 副委員長
デロイト トーマツ グループ 執行役

林 礼子 幹事／サステナブルな地球委員会 委員長
BofA証券 取締役 副社長

山野 智久 幹事／観光戦略委員会 委員長
アソビュー 代表執行役員CEO 代表取締役

挨拶

会期中のイベントカレンダーを公表。184日間、毎日開催

石毛 博行

開催が間近に迫り、関係者は一層身が引き締まる思いで取り組んでいる。

本日は夢洲会場で大屋根リングの上に登っていただく予定だ。会場整備の状況について心配する報道もあったが、実際に見ることで会場の雰囲気を感じていただきたい。

9月3日にはイベントカレンダー（下写真）を公表した。万博は184日間開催するが、パビリオン以外の主要施設でも毎日さまざまな無料イベントを実施する。このカレンダーでそれらを知ることができる。



（提供：2025年日本国際博覧会協会）

現場からは具体的な情報の発信が増えている。万博をどういう形で楽しめるのか、具体的にイメージしてもらうことが来場促進に向けて大変重要だと考えている。魅力あるコンテンツなどについて、今後も情報発信を続ける。

万博の成功に向けて、現時点では何よりも機運の醸成が非常に重要である。引き続き、新浪代表をはじめ経済同友会の皆さま方のご支援をいただきたい。

ドキドキ・ワクワクする思いが経済同友会からも伝わるように

新浪 剛史

会場視察が実現し、大変うれしく感じている。今日は活発な意見交換をさせていただきながら、経済同友会として協力できることをまとめていきたい。多くの人に知らせることは開催後も重要だ。



「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマは、人類共通の課題解決に向けた先端技術、世界の英知、新たなアイデアを創造発信することだと考えている。

5月17日に開催した経済同友会幹事会にて高科淳氏、落合陽一氏に講演いただいた（本誌7月号参照）が、そのときも幹事の皆さんの反響が素晴らしく良かった。私たちにできることはまず、このような広報活動だと思っている。多くの会員所属企業が関心をお持ちだと思う。われわれの活動は主に首都圏中心だが、会員や地域の経済同友会の方々にも、この日本国際博覧会はやはりドキドキ・ワクワクするものだとお話ししたい。幹部や会員の皆さんに伝え、そこから社員の皆さんに伝えていくような活動をしていきたい。「オモロイ」ものができることを確信している。

今日はその一端を私たちは感じると思う。全容が見えてくるのは万博が始まってからになると思うが、大いに期待している。

意見交換

意見交換では、日本国際博覧会協会より開催概要と今後の展望について語られた。



石毛 博行



田中 清剛



三浦 章豪



新浪 剛史



松江 英夫



林 礼子



山野 智久

経済成長につながる ポスト万博*の方向性とは

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。日本館をはじめとする各パビリオンで、これらを体現し、来場者の心に響く体験を与えることを目指し、開幕に向けた準備を鋭意進めている。佐藤オオキ氏にプロデューサーを務めていただいている日本館のテーマは「いのちと、いのちの、あいだに」である。少し抽象的に感じられるかもしれないが、実際にご覧いただくと、その趣旨をご理解いただけるようなものになると思う。ぜひ、楽しみにしていただきたい。

また万博の大きな目的は、全世界に共通する社会課題の解決にチャレンジすることである。課題解決に向けて、万博で生まれたアイデアがビジネスを通じて世界中で実装されることが重要であり、実際に万博を通じてさまざまなビジネスが生まれる可能性があるのではないかと考えている。

最近、参加国中心にビジネスマッチング機会への期待の声を聞く。先進国を中心に具体的な成果を報告したいという要望はあるという印象だ。したがって、今政府を中心に日本貿易振興機構（JETRO）や国際協力機構（JICA）、各経済団体の方々と連携しながら要望に沿えるものを検討している。今後も仕掛けを進めていく中で、新たなビジネスの出会いはあるのではないかと期待している。

万博以外の地域への観光を促すには

万博を契機に、大阪の街を盛り上げるために地域の経済団体と連携していきたいと考えている。また観光庁をはじめ政府も、万博に限らず日本全国の各地域を訪問していただけるように、あるいは他の地域を訪れた方々に万博にも来ていただけるように、といった取り組みも行っている。例えば、さまざまな地域の観光地を紹介するウェブサイトや立ち上げも検討中だ。さらに、より大々的な対策についても相談している状況である。

目標来場者数を達成するためには

目標来場者数2,820万人という大きな目標を達成したい。夢洲会場は約155ヘクタールだが、過去の万博会場と比較しても格段に大きいものではない。こ

の目標を達成するには会期中の来場者数を平準化する必要があるだろう。過去の例を見れば、会期後半は大変な混雑が予想できる。

また、会期中ごろから後半にかけては暑さ対策も問題である。給水や休憩スペースなどの対策を講じてはいるが、前半とは環境が異なるだろう。できるだけ前半に来場者を誘導できるよう、チケットの特典なども含め仕掛けを作っている。ただ、来場者の口コミや報道で初めて意識を持つ方も多い。ぜひ経済同友会の皆さまには会期序盤での来場をお願いしたい。また、万博はやはりレガシーである。来場者を含め、そこに携わる方々の記憶に残ることも非常に重要であり、おそらく数字的な面に限らず多角的な視点で評価を得ていくと考えている。

*大阪・関西万博閉幕後、万博で示された先端技術を実用化する拠点都市としてまちづくりを進めること。政府は関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）を拠点都市とする方針

レガシーの継承

大阪・関西万博は、「世界との共創」「テーマ実践」「未来社会ショーケース」を万博会場内外、また会期前から実践していく。これらを通じて、来場者や参加企業・団体が、後の社会に根付く新たな技術、サービス及びシステムに触れること、また、SDGs達成やSDGs+eyondに向けて自らが取り組むことにより、それぞれの考え方に変化が起これ、会期後の行動変容に繋がっていく。大阪・関西万博がこととなり、その理念・成果をレガシーとして後世に継承していくことも本万博の開催意義の一つである。また、主催者（2025年日本国際博覧会協会）は今後、大阪・関西万博の計画を具体化していくにあたり、多様なバックグラウンドを持つ人から広く知恵を集めつつ、準備段階から多様な主体による共創を実現していく。そのため、年齢、性別、国籍など様々な観点から多様性のある推進体制を構築していく。こうした未来社会を担う次世代の才能の飛躍の機会となることも、本万博のレガシーの一つである。【「2025年日本国際博覧会基本計画」（2020年12月）より】



2025年日本国際博覧会(略称:大阪・関西万博)の概要

テーマ: いのち輝く未来社会のデザイン

Designing Future Society for Our Lives

サブテーマ: Saving Lives (いのちを救う)

Empowering Lives (いのちに力を与える)

Connecting Lives (いのちをつなぐ)

コンセプト: People's Living Lab (未来社会の実験場)

- 1 展示をみるだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」(co-create)。
- 2 万博開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ。
- 3 人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場に。

開催期間:

2025年4月13日(日)～10月13日(月) 184日間

想定来場者数: 2,820万人

開催場所: 大阪・^{ゆめしま}夢洲

人員(2024年7月1日現在):

国、大阪府、関西広域連合構成府県・市、経済界などより職員約800人を派遣

万博の主要な担い手(プロデューサー)

会場デザイン: 藤本 壮介

会場運営: 石川 勝

催事企画: 小橋 賢児

八つのテーマ事業

「いのちを知る」福岡 伸一 生物学者、青山学院大学教授
「いのちを育む」河森 正治 アニメーション監督、メカニックデザイナー、ビジョンクリエイター

「いのちを守る」河瀬 直美 映画作家

「いのちをつむぐ」小山 薫堂 放送作家、京都芸術大学副学長

「いのちを拓げる」石黒 浩 大阪大学教授、ATR石黒浩特別研究所客員所長

「いのちを高める」中島 さち子 音楽家、数学研究者、STEAM教育家

「いのちを磨く」落合 陽一 メディアアーティスト

「いのちを響き合わせる」宮田 裕章 慶應義塾大学教授

万博の五つの魅力

- ①世界とつながる海と空の万博
- ②多様でありながら一つ
- ③いのちを見つめ直す万博
- ④未来社会の実験場
- ⑤世界と対話・交流する万博

8人のテーマ事業プロデューサー



宮田 裕章



石黒 浩



中島 さち子



落合 陽一 ©蛭川実花



福岡 伸一



河森 正治



小山 薫堂



河瀬 直美 ©LESLIE KEE